

□ 機能追加・改善内容

No.	項目	内容
1	ローミング機能改善	無線LAN端末が、本装置から別の無線LANアクセスポイントにローミングし、再び本装置にローミングにより戻ってきた際、通信が途切れる可能性があった。ローミング機能を改善し、この状況でも即時通信可能な状態とした。
2	MACアドレス認証機能改善	MACアドレス認証で使用する認証パスワードを装置単位に任意の文字列で設定可能とするコマンドを提供する。 ※CLI運用モードのみ(Web運用モードでは、将来提供予定)
3	RADIUS機能改善	AAAグループごとに設定できるRADIUSサーバ台数を4台に拡張する。 ※CLI運用モードのみ(Web運用モードでは、RADIUSサーバ台数は2台のまま。将来提供予定)

□ 修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V20.05	チャンネル最適化機能で使用するチャンネルリストの設定において、特定のチャンネルに絞った運用ケース(例:“5GHz(W52)のみ使用する”)の設定が、Web画面で許可されず設定できない場合がある。
2	V20.03 ~ V20.05	IEEE802.1X認証にてEAP再送回数(wlan dot1x maxreq)を1に設定すると、EAPOL-startを送信する無線LAN端末(Windows10 PC等)接続時にRADIUS認証サーバへの認証パケット送信に失敗して接続できない場合がある。
3	V20.03 ~ V20.05	起動バンクのソフトウェアがFLASHメモリの故障などで破壊された状態で起動させると、ソフトウェア二面化機能のロールバック処理を誤り、装置再起動を繰り返す。